

一般財団法人全日本大学サッカー連盟

社会貢献活動報告

2021年12月30日



学生スポーツからの社会貢献 - HIKARI プロジェクト -

1. 教育・啓蒙活動

○ #atarimaeni

暴力・差別・不正行為根絶を目指した啓蒙活動

新型コロナウイルス感染症により、『当たり前』を考える良いきっかけにもなった

『暴力・差別・不正行為はあってはならないことが「当たり前」であるべきなのに、それが「当たり前」ではないのかもしれない』という疑問から2018年にスタートした。スポーツの現場において、「このくらいの体罰は、昔なら当たり前だ」という声を聞く。しかしそれは許されるべきものだろうか。社会的問題にもなっている、教育現場における体罰等の暴力、人種・性別等の差別、金銭の不正受給等の不正行為。皆が良い行いではないことは分かっているはずだ。しかし無くなならないこれら行為。その背景には、「このくらいなら」「こいつのためだから」「バレないから」といった考えが隠れているのだろう。こういった既存の社会が持つ悪い当たり前の考えを変えない限り、社会からそれら行為は無くならない。そのために既存の当たり前を壊し、それらがなくなすることを「atarimaeni（あたりまえに）」する、その願いがこの活動には込められている。

新型コロナウイルス感染症により、今までの当たり前が当たり前ではなくなった。

本連盟においても全国大会の中止が余儀なくされ、加盟チームにおいても長期間活動が行えない日々が続いた。

何とか2021年1月に特例の全国大会の開催ができ、その大会名を当たり前に感謝するため・医療従事者やエッセンシャルワーカーの皆さまへの感謝を気持ちを込めて、『#atarimaeni CUP - サッカーができる当たり前に、ありがとう！』とした。

URL : <https://www.atarimaeni.com>

○マッチウェルフェアオフィサー（MWO）

＜サッカーを取り巻く環境における、差別や暴力等のハラスメント行為を起ささないための活動＞

全国大会における数試合において、MWOとして学生スタッフを各試合に配置し、試合中の審判員や選手の振る舞い・ベンチスタッフやスタンドの応援部員やファンの至る所までを注視し、ハラスメント行為につながるような言動がないかを確認した。

試合後に各チームの監督へ学生スタッフから試合を通じて感じたことを伝え、お互いにコミュニケーションを取ることで、世代間の様々な違い・ギャップを認めながらも尊重できることを目指して活動を行った。

監督側からは、学生から発言に対して指摘をされることに抵抗を持たれる方もいる中で、1つの言動に対して客観的に様々な見られ方をされることを理解できたという意見が多く聞かれた。またMWOとして活動する学生スタッフは、監督という立場の人に率直な意見を伝えることの難しさ、またどういう背景でそういった言動が生まれるのかを伺ったことにより新たな考え方が持て、視野が広がったという意見があった。

今後も継続的に本活動を実施し、サッカー界・学生スポーツ界、そして社会全体から差別やハラスメント行為がなくなるように努力したい。

* 新型コロナウイルス感染症蔓延下のため、2020年度及び2021年度は実施なし



学生スポーツからの社会貢献 - HIKARI プロジェクト -

2. 多様性を認め合える社会に

○パートナーシップ協定 -日本知的障がい者サッカー連盟-

2016年12月より日本知的障がい者サッカー連盟とのパートナーシップ協定を締結。

サッカー教室の開催やボランティアスタッフの派遣等を行い、サッカー界の発展のみならず、障がい者と健常者が当たり前に混ざり合う社会を目指している。

＜活動実績＞

- ・サッカー教室での運営補助（毎月開催）
- ・障がい者スポーツイベントの運営補助
- ・障がい者サッカー教室の主催（年1回）



対応するSDGsのゴール

3. 環境問題に対して

○ウェアやボールの寄付

JICA「世界の笑顔のために」プログラムを通じた物品寄付やミャンマーやルワンダへの直接的な物品寄付を行った。



対応するSDGsのゴール

- ペットボトルキャップ収集活動
- ペーパーレス化による事務消耗品削減
- 海外大会参加時の清掃

世界の子どもたちの命と健やかな成長を守るために活動するユニセフは、「スポーツの力」を、世界の子どもたちの支援する様々な活動に活かしており、賛同する人たちで「チーム・ユニセフ」として活動しています。本連盟では2016年より（公財）日本ユニセフ協会と交流を持ち、「チーム・ユニセフ」の一員として活動しています。

URL : <https://www.unicef.or.jp/teamunicef/team-jufa.html>

これまでの取り組み

- [全日本大学サッカー連盟×FrienDonation](#)
- [Team UNICEF ×JUFA - ONE GOAL ONE COIN -](#)
- [関東大学サッカーリーグ](#)
- [『世界手洗いの日』がハーフタイム・ジャック](#)



国連グローバル・コンパクト活動



- ・本連盟は、2016年12月に同ネットワークに加盟した。
- ・「国連グローバル・コンパクト」は、グローバル経済の進展により生じた様々な社会課題に対応するために創設された、国連機関・民間企業・非営利団体等が参画するプラットフォーム。
- ・国連「持続可能な開発目標（SDGs）」の推進につながることから、多くの企業・団体がこれに賛同しており、日本におけるローカルネットワークである「グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン」には、約350の企業・団体が加盟している。

寄付月間 Giving December 寄付月間 2021

- ・寄付月間（Giving December）は、寄付を通じたよりよい社会づくりを願う様々な人々が毎年12月、全国一斉に行っているキャンペーン。NPO、大学、企業、行政などあらゆる団体がこのキャンペーンに賛同し、それぞれの団体ごとに公式認定企画と呼ばれる独自の取り組みを行っている。
- ・本連盟では、リードパートナーとして本キャンペーンに参加しております。
以下の2つの企画を公式認定企画として実施している。
 1. ONE GOAL ONE COIN
ゴール数に応じた寄付を行い、悪意のある警告や退場によって減額する取り組みである。
直接的な寄附が行いにくい学生にとって、自分の活躍が寄付につながることで、寄付の大切さを学ぶ機会としている。
 2. 来場者寄付企画
全国大会の来場者数に応じ、寄付金額を決定する取り組みである。来場者も寄付行為に関われるようにしている。
- ・本連盟の櫻井友理事は、公財のために多額の私財を寄付し、2021年11月末に紺綬褒章を授与されました。
本連盟の活動の模範となる活動を櫻井理事は日々されており、本連盟内において社会のために行動をできる人の輪が少しずつ広まってきています。